

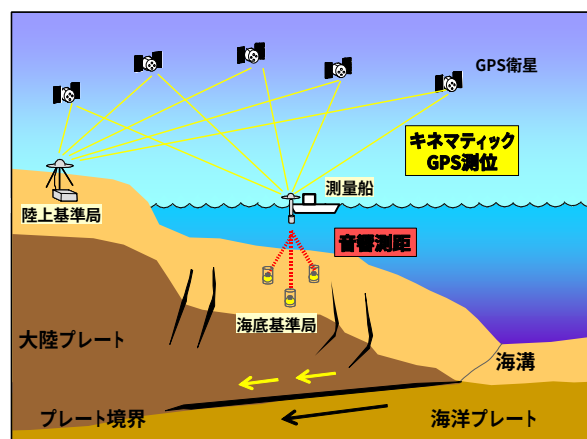
## 海底地殻変動観測の最近の成果と将来展望

海上保安庁・東京大学生産技術研究所

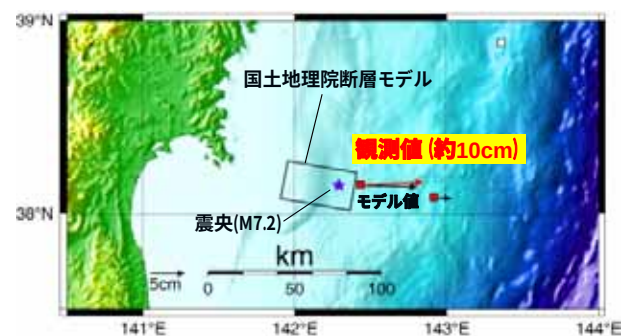
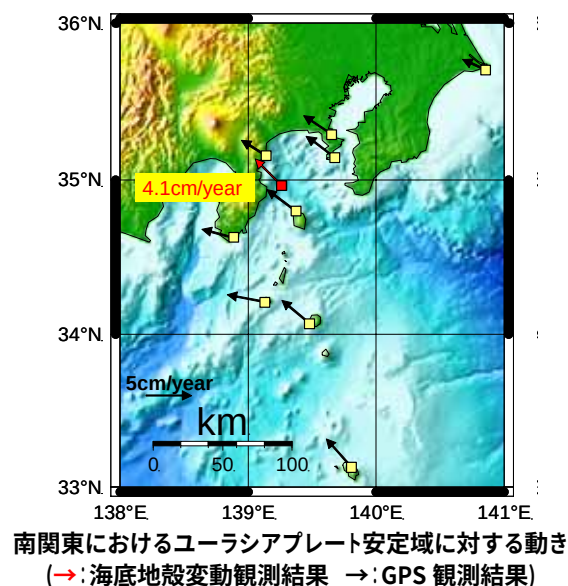
海上保安庁と東京大学生産技術研究所では、GPS/音響結合方式による海底地殻変動観測の技術開発及び海底基準点の展開を行っている。我々の海底基準点は、主に海溝型巨大地震の発生が予想されている日本海溝及び南海トラフ沿い陸側に十数点設置しており、測量船による繰り返し観測を実施している。

これまでの観測から、宮城沖及び相模湾における定常的なプレート運動、2005年8月16日の宮城県沖の地震（M7.2）に伴う地殻変動が検出されており、技術レベルとしては実用段階に入りつつあると考えられる。

現状では、十分な観測回数の確保や海底基準局の電池の寿命の問題等いくつかの検討すべき課題はあるが、海底の地殻変動データの蓄積により、陸上のGPSデータだけでは分からなかった海域の詳細な固着状況の把握やより実態に近い断層モデルの推定が可能となると期待される。



海底地殻変動観測概念図



2005年8月16日の  
宮城県沖地震(M7.2)に伴う地殻変動